



ノカンゾウ

93・97・99 篇に共通していることは **主こそ王**。という賛美の言葉で始まっていることです。私たちは祈る時には主イエスが教えて下さったように「父なる神」と呼びかけますが、旧約聖書の時代には考えられないことです。

主従関係を明確にして「主なる神」と呼び、**主こそ王** という表現はその流れでしょう。さらに、戦争が日常的な時には「万軍の主」と呼び、助けを求めたと思います。

**主こそ王** という言葉で始まる三つの詩編ですが、「王」の賛美すべき特性は詩編ごとに違いがあります。

93編では **主こそ王。威厳を衣とし／力を衣とし、身に帯びられる。世界は固く据えられ、決して揺らぐことはない。(1)** と、威厳、力を持ち、堅く創造された地に君臨する神です。太初からあった恵みの水が、**潮は打ち寄せ 響きをあげ 大水のとどろく声 海に砕け散る波** となって押し寄せ、混沌、破壊的な力を発揮する時も、**さらに力強く、高くいます主** として、確固たる尊厳を持って支配する王なる主として賛美しています。

97編では **主こそ王。全地よ、喜び躍れ。多くの島々よ、喜び祝え。(1)** と、喜びをもたらす神です。**正しい裁きが王座の基をなす。(2)** と、神は根幹に正義があるのです。正義の裁きの象徴である **火は御前を進み／周りの敵を焼き滅ぼす。(3)** とあります。喜びの理由は、敵が滅ぼされたからです。敵として裁かれるものは **偶像礼拝に仕える者 むなしい神々を誇りとする者(7)** です。**シオンは聞いて喜び祝い／ユダのおとめらは喜び躍る／主よ、あなたの裁きのゆえに。(8)** と、すべての民は祝います。**あなたは主、全地に君臨されるいと高き神。(9)** として民は君臨する神に従います。**神に従う人よ、主にあって喜び祝え。聖なる御名に感謝をささげよ。(12)** と、喜び祝うのです。

99篇は **諸国の民よ、おののけ。主はケルビムの上に御座を置かれる。地よ、震えよ。(1)** と、他国、他民族に恐怖、戦慄を与えるほど、聖なる神です。**ケルビム** とは **こうしてアダムを追放し、命の木に至る道を守るために、エデンの園の東にケルビムと、きらめく剣の炎を置かれた(創 3:24)** とあるように天使です。その対の似姿を彫り、契約の箱の上に置く飾りとしました。契約の箱、即ち神殿の上に神はおられると言います。**我らの神、主をあがめよ。その足台に向かってひれ伏せ。主は聖なる方。(5)** と、神殿が民族の誇り、拠り所であると述べます。モーセ、アロン、サムエルなど、律法や契約の箱に関わった祭司、預言者をも賛美しています。**我らの神、主よ、あなたは彼らに答えられた。あなたは彼らを赦す神／彼らの咎には報いる神であった。我らの神、主をあがめよ。その聖なる山に向かってひれ伏せ。我らの神、主は聖なる方。(8)** と、罪を裁き、赦す、聖なる神と、賛美します。

『讚美歌 21』は 93 篇を、16「われらの主こそは」 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2012-06-20> で賛美しています。97、99 篇の関連讚美歌はありません。ジユネーブ詩編歌はいずれも清々しい、晴れやかな賛歌です。

93 篇 <https://www.youtube.com/watch?v=hdk5VorCANE&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=93>

97 篇 <https://www.youtube.com/watch?v=Hn1-kRWIAAsA&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=97>

99 篇 <https://www.youtube.com/watch?v=JQUPPLqL0wo&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=99>